

## 令和3年度 1年次「総合的な探究の時間」講演会

10月5日(火)「総合的な探究の時間」に、1年次生を対象に7名の講師をお招きして分科会形式で講演会を開催しました。本講演会の目的は、県内の各分野で活躍されている方々の講話をお聞きし、社会的な使命や仕事上の課題を示していただきその課題解決に向けてどのような取り組みをされているのかを学ぶことです。講演会の中では、実体験をもとにした現状理解と課題の発見、そして課題解決に向けた具体的な取り組みに関して詳しいご説明をいただきました。加えて“社会”で働くことの意味や“地域”に貢献するということがどういうことなのかという視点からも様々なお話をお聞きすることができました。

現在1年次生は、「山形を学ぶ～持続可能な発展のために～」という大テーマのもと、県内の様々な分野の中から興味・関心に応じて設定した研究テーマについて、課題発見や課題解決を考える活動をグループで進めています。

### ●講師

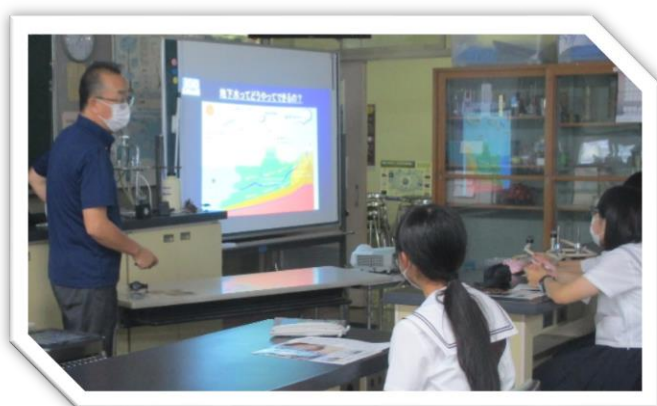
第1分科会	日本地下水開発株式会社	桂木 聖彦 氏
第2分科会	米富繊維株式会社	大江 健 氏
第3分科会	居宅介護支援事業所 訪問看護ステーションやまがた	明日 浩子 氏
第4分科会	にしだ産業医事務所	西田 稚子 氏
第5分科会	和田酒造合資会社	和田弥寿子氏
第6分科会	山形まちづくり株式会社	下田 孝志 氏
第7分科会	まるつね果樹園	結城こすえ氏

### ●講演会風景及び生徒の感想

#### □第1分科会 桂木 聖彦 氏

地球上のすべての水が飲み水として利用できるわけではないことは知っていたが、淡水がわずか2.5%しかないという数字を見て驚いた。また、世界という広い視野で見ると、山形等の日本海側の

ような地域に人が住むというのは珍しく、だからこそ地下水の熱を利用して消融雪技術を発展させていこうとする地域ならではの発展がすごいと思った。その上で散水消雪を無散水消雪システムにすることでより循環型の社会に繋がるので、需要と環境の両面から技術・事業を何度も見直すのは大切だと思った。



### □第2分科会 大江 健 氏

山形の会社でファッションブランドを立ち上げている会社があることを初めて知った。時間をかけてブランドを立ち上げ、それが今実現している訳が、実際に商品に触れてみてわかった気がした。



ブランドを立ち上げる時の周囲の反応が良くななくても諦めなかったことを聞いて、自分の理想を叶えるためには粘ってみることが大切だと思った。また、山形県には1ターン・Uターンをして会社で働いている人が多数いると聞いた。これからはファッションの業界でも海外との取引が増え、専門的な知識だけではなく、言語などの幅広い知識が必要になってくるのだと思った。

### □第3分科会 明日 浩子 氏



ケアマネジャーと介護が必要な人の間には、金とサービスの行き来だけではない繋がりがあのだと思いました。被介護者のみでなく、その家族も支えるという重要な役割を果たしていることがわかりました。その人がどう生きたいか、何ができるのか、何が出来ないのか、家族はどう考えているかなどしっかりと介護に必要な物事を把握できる能力と、自分の親切を押し付けすぎない親切さが大切なのだと思いました。

### □第4分科会 西田 稚子 氏

産業医という仕事を初めて知り、これからの社会でますます必要になってくる職業であると感じました。適度なストレスは私たちが成長することにつながるが、過度なストレスは精神障害などを引き起こしてしまうのだということがわかりました。ストレスと上手に付き合うということはとても大事な



のだと感じました。落ち込む時はとことん落ち込み、泣きたい時は思いっきり泣いて、地に足のついた落ち着きのある人になりたいなと思いました。癌にかかっても、仕事を辞める必要はないということを知り驚きました。どんな困難にぶつかっても、自分の意識の持ち方や自分の体と心を信じることで、幸せになることができるということが素敵だなと思いました。

## □第5分科会 和田弥寿子氏

講師の和田さんが、とても楽しそうに講演したり、積極的にいろんなことを話してくださったりして、聞くのがすごく楽しかった。特に印象に残っているのは、お酒造りに携わる似た境遇にいる女性



の方や、異業種の方などが集まってお互いを高め合っていたところだ。課題を出しているうちに、それぞれが廃棄しているものを他の企業で役立たせて無駄のない生産を自然と行っていたことが本当に素晴らしいと思う。また、和田さん自身、やりたいことを見つけ、どの大学に進学すればよいか自ら調べて、東京の大学へ行ったり、たくさんのイベントや講演に参加した結果視野が広がり、また、様々な人たちと交流して高めあったりできていて、「行動力」は大切だなと感じた。

## □第6分科会 下田 孝志 氏

中心市街地というのは山形市によって定められているということを初めて知った。自分も登下校の際、市街地を通ることがあるが、盛り上がってるという印象はあまり受けなかった。しかし、私たち



がそのように思い込んでいるだけで、情報の誤った理解や、発信の少なさによるものだということがわかった。七日町が全国的に注目されているということを初めて知ったので、今後は、何気なく通る道でも、どのような工夫がされているのかなどを注視していきたい。また、SNSを使った情報発信についても、「発信する側」である自分たちが主体となっていることを意識し、自分の住む街がより良いものになるよう積極的に携わっていきたい。

## □第7分科会 結城こすえ氏

山形の農業従事者の数（特に若い層）がとても少ないことに驚いた。山形の数字を見ただけでも少ないと思ったのに、全国はもっとひどい状態だと聞いて変えていかなければならないと思った。私の父の実家でも農業しているので、話の内容をととても身近に感じながら聞くことができたし、実際に手伝



いをした体験や、講話を聞いたりして農業は大変だということを改めて感じた。しかし、先生からもあったように、やりがいはとても大きいものだし、魅力もたくさんあるので、もっと発信していけば問題解決にも繋がると思った。フードロスの問題に取り組んでいることも興味深く感じた。世界的に問題になっていることだし、一人一人が取り組まないと改善していくことは不可能な問題だと思うので、改善のためにしている活動を聞けてとてもためになった。